

2024年12月23日

世界銀行が発行する 「サステナブル・ディベロップメント・ボンド」への投資について

大樹生命保険株式会社(代表取締役社長 吉村 俊哉、以下「当社」)は、この度、世界銀行(正式名称:国際復興開発銀行(IBRD))が発行する豪ドル建サステナブル・ディベロップメント・ボンド(以下「本債券」)への投資を実施しました。

当社はサステナビリティ経営基本方針のなかで、3領域として「人」「地域社会」「地球環境」、5つの重要課題として①人生100年にわたる安心・安全の提供、②希望に満ちた未来世代を育む、③多様性と人権の尊重、④活力あふれる地域社会の創出、⑤豊かな地球を未来につなぐを設定しています。

当社が掲げている3領域および5つの重要課題は、開発途上国を支援する世界銀行にとっても極めて重要なテーマとなっています。「人」の領域については、高齢者層の保健ケアに対する各種施策の推進や、子どもの成長に欠かせない学習機会の提供、そしてジェンダー戦略・障がい者支援などの推進を、「地域社会」の領域についてはSDGs目標11番「住み続けられるまちづくりを」を目指した持続可能なコミュニティづくりの推進を、「地球環境」の領域については気候変動対策資金の増額を含めた行動計画などに注力しています。

本債券の資金は、世界銀行による開発途上国への融資を通じて、教育・職業支援やインフラの整備、また気候変動対策などを含むプロジェクトの支援に活用されます。

これまで当社では、環境債(グリーンボンド)や社会貢献債(ソーシャルボンド)、ESG投信などへの投資を行ってきました。今後も引き続き生命保険会社としての社会的責務をふまえ、資産特性に応じて環境・社会・ガバナンスの課題を考慮した資産運用を行い、環境や地域・社会と共生し、経済・企業の安定的な成長と社会的価値の調和的な発展を目指します。

<本債券の概要>

発行体	世界銀行(国際復興開発銀行)
格付	AAA(S&P)/Aaa(Moody's)
発行総額	40百万豪ドル
償還期間	15年

【世界銀行が取り組むプロジェクト事例】

中央アジアにおける交通の改善

世界銀行の調査では、中央アジアとコーカサス地方の中央回廊沿いの国々(※)において適切な投資や政策が履行されることで、2030年までに貿易量を3倍に増加させ、移動時間を半減させることが可能と考えられています。

(※)主な国々としてカザフスタン、アゼルバイジャン、ジョージア

中南米諸国における気候変動対策とグリーントランジションの推進

世界銀行は中南米諸国における気候変動への適応やグリーントランジションを促進しています。ペルーでは、15億米ドルに及ぶ2つのプロジェクトによって気候変動への適応やグリーンエコノミーの促進を図っています。コロンビアでは、7億5,000万米ドルのローンを提供し、野生動物の保護や森林伐採の削減を推進しています。

【本件と関連性の深いSDGsテーマ】



*上記プロジェクトは、事例のご紹介のみを目的としており、本債券の資金の活用を上記プロジェクト又はその分野に限定するものではありません。

以上